



転居された方は事務局(svcf-admin@svcf.jp)まで転居先をお知らせください

## 第 132 回院内集会

福島原発行動隊は、12月の院内集会で「2024年(度)の活動方針」につき会員どうしの話し合いを行いました。「これまで行ってきた活動をより多くのメンバーが参加する、より有益なものとしていくには、どのように改善すればよいか」「団体活動の改革につながるような新しい活動のアイディアはないか」をテーマとして毎年行ってきた討議です。

- 日時:12月8日11時-12時30分
  - 開催方式:オンライン(Zoom)
  - テーマ:2024年(度)の活動をどのように進めるか
- 討議内容は以下の通りです。

### I、これまで行ってきた活動

#### ○院内集会

- ・団体発足当時は、定数100人以上の会場が満員となり、椅子につけないうえに床に座っている参加者もいるほどだった。しかしいまでは、参加者は往事に比べて激減。毎月1,000人余りに開催案内を送っているが、毎週の連絡会議参加者と変わらない少数になっている。
- ・コロナで、東京都心に来るのを憚ることになったため、集会は実際には「院内」ではなくオンラインで行うこととなって久しい。福島、沖縄、北海道などの遠隔地でも、また電車/バスで移動中でも集会参加は可能になっているのだが、オンラインのメリットは現れていない。
- ・開催案内の仕方や集会テーマの立て方を考えなおさねばなるまい。

#### ○連絡会議

- ・毎週39人に会議開催案内をしているが、会議参加者は最多10人に固定している。
- ・院内集会、連絡会議の双方について、連絡の対象者、連絡方法、連絡事項(議題/集会テーマ等)、会議進行等を見直し集会/会議をより充実したものとするため、毎月会報(『SVCF』通信)や院内集会案内送っている行動隊メンバーを対象にアンケート調査を行うことにしよう。

#### ○『SVCF 通信』

- ・現在行っているように、毎月1回発行していくことは重要

なことである。

- ・読んでたのしいものとするため、福島現地で取材することも必要だ。
- ・筆者を行動隊メンバーに限らず、団体活動に関わりのある他団体の方などに寄稿を求めていくべきだ。
- ・行動隊メンバーは、行動隊がいまどういう活動しているか、しようとしているかを、会報を読んで知ろうとしている。理事長は毎月の『SVCF 通信』でそれを行っていくべきだ。

#### ○福島行動

- ・帰還を待って帰還困難区域に取り込まれた自宅の保全を続けてきた富岡町の被災/避難者が、いつまでも避難指示が解除されないで来たため帰宅をあきらめ、この春自宅を解体してしまった。行動隊は、この被災者の自宅保全作業を支援する活動を長く続けてきたが、その活動の場をうしなうことになった。こうしたことで、被災者の生活回復に向けて行う復興支援活動等は、次第に狭く凝り固まるようになっている。この状態を打開し、行動の広がり深みを増すための工夫が必要になっている。
- ・その工夫の一つとして、2022年10月以来「明日のふるさと」「わがふるさとへの想い」をテーマに、1Fに近い原発事故被災地の自治体首長、そして元の町/村に帰還した被災者や移住者などを講師に招き、合わせて10回の院内集会をシリーズで行ってきた。地域の復興/再生に向けた地元の計画等をきかたわら、行動隊への支援要請がないかをさぐったが、具体的な要請をほとんどないままに終わった。
- ・体を動かす事だけが「行動」ではない。行動隊員は概して高齢者なのだから、「カラダ」が動かせる者はだんだん

減っていかざるを得ない。年を取っている者なりに「アタマ」を使い、廃炉事業についてそのゴールを明確にすることを政府に提言すること等を考えるべきだ。

## II、新たな活動

(行動隊の設立目的「原発事故の早期収束」にかなう、これまでには行ったことのない活動。若い、新たな会員を得ることにつながるような魅力のある活動。経常収入が実質50万円弱である団体に相応な予算を適切に見込むことの出来る活動)

・原発を巡る情勢は、事故直後とは大きく変わってきている。1F 暴発の危険はなくなっていない。状況の変化に対応していけるよう、行動隊は基礎体力をつけていかねばならず、そのための具体的な策を打ち出していきたい。

## III、「解散」をどう考えるか

(『福島原発行動隊 10 年誌』刊行を機に行動隊の幕引きが取り沙汰されること等に関連して)

- ・『10 年誌』が出来上がったので、自分としては終わりで。団体をどうするかは、残っている人が考えることだ。
- ・「1F 構内に入り身をもって廃炉作業に当たる」という団体

発足当初の行動目的は実行出来ないままであり、存続の根拠を失っている。

他方、廃炉事業の進展状況を東京電力、政府に定例的集会(「院内集会」)で質するような活動をしている団体は他になく、存続していくこと自体に意義がある。解散を言うこととは矛盾しているとも言えるが、明日にも解散せよと言うわけではない。時間の経過とともに、徐々に fade out していくことということではないか。

・行動隊設立者の山田恭暉君は、世界を行脚して「原発事故収束」のために立ち上がる事を言明した。世界に公約したのだ。事故収束(廃炉)に当たっている東京電力、政府の人材も永遠に続くわけではなくいずれはソフトランディングするであろう。だが、彼らが廃炉等の活動を続けている限り、われわれの側から「やめる、解散する」ということはあり得ない、あつてはならない。

・行動隊は、存続すべきである。

・原子力発電をめぐる状況は団体発足当時とは一変し、政府は原発利用に向けて大きく舵を切っている。『10 年誌』はそうした状況に対処して活動を続けていくために刊行されたのである。

## “成長”する〈あまの川農園〉

安藤 博

福島原発行動隊の 2023 年最後の福島行動は、大熊町に移住して農業に取り組んでいるフランス人エミリーさんの要請にこたえて、造成中の〈あまのかわ農園〉の整備作業に当たることでした(『SVCF 通信』163 号掲載の第 130 回院内集会報告「移住してきた“わがふるさと”への想い」参照)。安藤、家森、加藤、山田の 4 人、20 日(水曜)午後から 22 日(金曜)午前中までの二泊三日で、短いけれども密度の濃い行動でした。

福島はやはり東北、朝がたは零下となります。ただ、1.7ヘクタールの広大な農園敷地の大方を覆う雑草や竹を切り払う作業にかかると、すぐに汗をかき寒さを忘れず。

エミリーさんの農園は、この夏に初めて見た時に比べてかなり整い”成長”していました。ほぼ全面雑草だったのが、各種の果樹苗木を植えた板囲いの育苗地がいくつも出来上がっています。

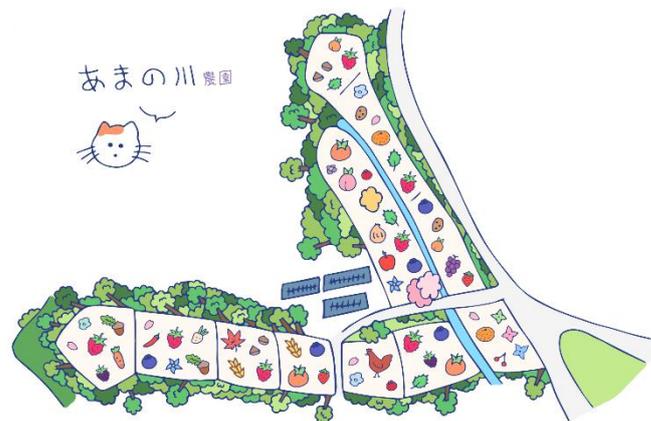


エミリーさんは、多種多様な果樹等で構成する農園構想は以下のように描いています。

「ラズベリー(70本～)、ブラックベリー(60本～)、ブルーベリー(50本～)、カラント・カシス(6本～)、紅葉苺(4本)、黒イチゴ(30本～)、木苺(20本～)、リンゴ(8本～)、杏(3本)、ぶどう(5本)、イチゴ(10本～)、さくらんぼ(3本)、みかん(5本)、栗(5本～)、イチジク(1本)、ミント(200本～)、ローズマリー(10本～)、ラベンダー(5本～)、バラ(5本)など。

数えられない野菜もあります、ニンニク、じゃがいも、エシヤロットなど」。そして猫小屋などの「リラックスエリア」や「農業体験スペース」もある「観光農園」を目指しています。

エミリー農園は、狭く固まってきていた行動隊の福島復興支援活動をひさびさに広げる新しい活動地です。大きな耕運機も持ち込んで手助けしている地元大熊町のひとたちとともに、海外からの移住者が原発事故被災地福島で育む夢の実現に出来るだけの支援をしていきたいと思っています。



エミリーさんはさすがプロのイラストレーター。親しみやすく分かりやすい農園完成図を描いてくれた。

## あの手この手の思案を胸に……

安藤 博

### 福島原発行動隊の皆さん

福島原発被災者の生活回復につながる行動をより広げ深めようと、この一年様々の試みを重ねましたが、さしたる成果をあげられないまま 2023 年も終わろうとしています。

東京・千代田区淡路町の事務所に届く便りと言えば、団体発足以来 10 年余の行動を会費/寄付金で支えて下さった会員の奥様からの「主人は去る●月●日、永眠いたしました。長らくお世話になりましたが……」と言うお知らせです。「60 歳以上」の高齢者を隊員募集して始まった団体です。退出する高齢者を補うに足る新規隊員の加入がない以上、時の経過とともに隊員/団体収入が減っていくのは自然の理です。団体活動を支える基幹となる会費/寄付金収入は、2021 年度の約 81 万円から昨 2022 年度は約 47 万円に急減。2023 年度はさらに約 38 万円程度にまで落ち込んで行こうとしています。まさに「あの手この手の思案を胸に、やぶれ長屋で今年も暮れる」です。

そうした中で「行動隊もうこれまで」と解散の声が出ていると言います。この 12 月 1 日付けで『福島原発行動隊 10 年誌』が刊行されたことをもって、団体幕引きの区切りにするという隊員もおられるようです。

これまでも「解散」が言われたことがありました。将来のある若者の被曝を軽減するため、「放射能被曝の身体的影響が比較的少ない高齢者が身をもって東京電力福島第一原子力発電所(1F)構内入り、廃炉作業に挺身する」と唱えて立ち上がった行動隊でしたが、高齢者による「暴発阻止」の行動が実際には不可能であることを思い知らされるようになったからです。

そのことを東京電力の廃炉事業会社トップが真っ向向上段から切り落とすように明言したのを、私は鮮明に記憶しています。今から約 10 年前の 2014 年 9 月 27 日、早稲

田大学キャンパス 15 号館で「福島原発の収束・廃炉を考える—私たちに何ができるか」と題して開催されたシンポジウムで、東京電力福島第一廃炉推進カンパニーの増田尚宏プレジデントが行った発言です。「私が廃炉事業の現場の責任者である限りは」と増田さんは表を改めるようにして言ったのです、「高齢者である福島原発行動隊の方たちを 1F 構内の作業に受け入れる事は出来ません。作業中に倒れる人が出るようなことは、絶対に避けねばならないからです」。行動のバネとなるべき「高齢者が若者に代わって」が、逆に行動を封ずることになったわけです。

このシンポジウムのことを記録している行動隊会報には、増田プレジデント発言は「現場で働いている人たちを『親として』支えて欲しい」という当たり障りのないことしか書か

れていません(『行動隊 10 年誌』65 ページ掲載の『SVCF 通信』2014 /10/17 日発行号参照)。

しかしシンポジウム予告をしたそれよりの前の号には、「下記の事情から貴法人に直接作業を発注することは難しいと考えております」という、増田発言と同趣旨の東京電力本社の意向が明記されています。「廃炉作業そのものではなく、せめて 1F 構内の汚染水貯蔵タンク見回りの作業(タンクパトロール)をさせてもらえないか」と行動隊が申し入れたのに対して、東京電力は原子力安全・総括部長、高瀬賢三名の「弊社福島第一原子力発電所構内における作業の請負について」と題する回答文書で、懇懇ながらにべもないお断りを通告していました(『行動隊 10 年誌』63 ページ掲載の『SVCF 通信』2014 /8/1 日発行号参照)。「事情」とは、「作業には相当の技術と体力が要求される、・・・過失等によって事業停滞を招いた場合には金銭的賠償をしていただく確約が必要」であること等です。

「身をもって廃炉作業に当たることが出来ない以上、行動隊は存続する意味がない」と言って団体幹部の理事など多くが辞めて行かれたのは、10 年くらい前のことです。

ところで、行動隊定款第 4 条(行動目的)に謳われている「原発事故の早期収束」は、暴発事故を起こした東京電力福島第一原子力発電所(1F)の建物、機械設備の後片づけ(廃炉)に限られるものではないはず。崩壊した 1F 建屋/機材等の【モノ】を処理することと合わせて、原発事

故の被害を受け住む家を追われた(強制的避難指示)福島の【ヒト】たちの生活回復を図ることがあります。憲法第 22 条第 1 項で保障されている【居住の自由】侵害を招いた原発事故の、【ヒト】に対する巨大な悪行の後片づけが残っている事を、私は『行動隊 10 年誌』の緒言で念押ししたつもりです。

行動隊を去った理事のひとりが言われた言葉をいまでもよく覚えています、「福島の被災者に寄り添うという美名に隠れて、徒に組織の温存を図ってはならない」と言うのでした。

しかし、団体発足に立ち合ったわけではなくやや遅れて行動隊メンバーとなった私は、行動隊と言う組織自体に特別の愛着とか思い入れがあるわけではありません。

ただ、行動を続けるなかでご縁ができた原発事故被災地福島のヒト/まちむらが手助けを求め「忘れないで欲しい」と言っている限り、「そろそろお終いにしましょうや」などと言い出せるものではないと思っています。

これは、いまたまた代表理事を務める私が、個人の思いとして言っている事ではありません。縁あって行動隊メンバーとなられた全ての方々の、つまり「原発事故収束」を掲げて立ち上がった行動隊という組織の、志です。

皆さん、この志を胸に、どうぞよい年をお迎え下さい。

『福島原発行動隊 10 年誌』(2023/12/1 刊行)を頒布しています。ご希望の方はお名前・住所を〒101-0063 千代田区淡路町 1-21-7 清和ビル 1 階 A 室 公益社団法人福島原発行動隊 または 杉山隆保 <[takayasusugi8888@gmail.com](mailto:takayasusugi8888@gmail.com)>宛てお知らせください。



### 【行動隊 2024 年 1 月スケジュール】

#### ● 第 133 回院内集会

1 月 19 日 金曜日 11:00-12:30(予定)

#### ● SVCF 通信第 166 号発行

1 月 23 日 火曜日

#### ● 連絡会議

以下の各金曜日 10:30(1 月 5 日・12 日・19 日 26 日)

SVCF 通信 : 第 165 号 2023 年 12 月 23 日

